

継体天皇と筒城宮

京田辺には、1500年前に宮があったんだ



『つきはっけん講座&ウォーク』
第3回 H26.8.8

大王の世継ぎ

【日本書記】

- 第二十五代武烈天皇が崩御、皇子・皇女がなく、世継ぎ問題発生。
- 大伴金村大連が会議を行い、世継ぎがない状態が続くと禍が起こるので、早く決めることになる。
そこで仲哀天皇の五世の孫、倭彦王（やまとひこおおきみ）を丹波の国（亀岡市）へ迎えに行く。
倭彦王は物々しい兵をみて山へ逃げてしまう。
- 大伴金村大連は再度会議を開き、物部麿鹿火（もののべのあらかひ）大連、巨勢男人（こせのおひと）大臣らの賛同を得て、三国に住む男大迹王を推薦し、越前の三国に迎えの使者を派遣する。
- そこに見た男大迹王の泰然自若として、陪臣を従えている姿に、すでに帝の座すが如しと、使者たちはその場で王に忠誠を尽くすほどであった。
- しかし皇位を継ぐには「意の裏に尚疑いあり」として皇位につかず。
- 河内馬飼首荒籠（かわちのうまかいのおびとあらこ）が大臣、大連は男大迹王の心からの歓迎を伝える密書を、男大迹王に伝える。

※軍師 河内馬飼： 軍馬の育成、陸・水運

馬：4C末～5C日本列島に入ってきた。四条畷 蔀屋（しとみや）北遺跡

男大迹王

■ 越の国での実績

沼地を大規模治水（九頭竜川・日野川）

越後平野：実り豊かな土地、定住可能

開港、水運発展、稲作、養蚕、採石、製紙、

産業発達 笏谷石（しゃくだに）の採鋤

百済との交流（氏名、2文字姓、朝鮮渡る）

■ 人物・・・大王に相應しい

大きく育つ、慎重・大胆、大豪族、高齡



渡来文化



足羽山公園 あすわやま（福井市）

京田辺に宮を遷した理由

●木津川流域の要衝

- ・木津川は水運基点、その流域の京田辺
木津川～巨椋池～淀川～瀬戸内海 → 北九州
～桂川 → 山陰
～宇治川～琵琶湖 → 北陸
→ 近江・伊勢
- ・山背国の最南部、大和盆地の北部で 境
- ・淀川(樟葉宮)、木津川(筒城宮)水系が勢力基盤となり
大和盆地に宮を遷す必要はなし
- ・継体派の相伴、物部、和珥氏は大和盆地にも拠点を持つ

●陸上交通

- ・「七道駅路」は7～8世紀にかけて建設
- ・その原型が三山木付近にあったのではないかと『山本驛』

京田辺に宮を遷した理由

●豪族との関係

- ・京田辺地域の息長氏、和珥氏と婚姻関係
神功皇后の伝承も息長一族との関わり

※息長氏の先祖は息を長く保つ民族から海の民、
または「風を吹く」から製鉄の民。

- 継体天皇にとってこの筒城は強力なバックボーンの地域でありさらに交通、情報の中心地であるため、ここに「筒城宮」を置いたのではないか。

※京田辺市にある観音寺の古い名前を「息長山普賢教法寺」といい、山号からも息長氏との強い関わりがわかる。

筒城宮候補地の評価

候補地	主な場所、特徴	丘陵地	水交通	遺跡	地名
①都谷西～ 観音寺周辺	多々羅都谷(同志社大学) 西 普賢寺(観音寺) 周辺	○	○	×	○
②三山木越前周辺 (こしまえ)	南山城跡、大南山	○	△	×	○
③薪堂ノ後周辺 (どうのあと)	堀切古墳、埴輪の発掘 尾張連の工人が作る	△	○	○	×
④飯岡の丘陵地	木津川の近く 古墳群は、継体の皇子や孫に当たる人が比定	○	○	△	×
⑤田辺高校の 北東一帯	木津川に最も近く	×	○	△	×

継体天皇の謎

1. 出自、出身、血筋
 - ・ 皇統？ 北陸の豪族／息長氏出身
 - ・ 五世の孫、万世一系？、新王朝論
2. 筒城宮とは
 - ・ 都、宮、軍事拠点、宮の出張所
 - ・ 古事記は記録がない
 - ・ 「味間野記」から候補地を占う
3. 大和に入るのに20年かかる
 - ・ 先客がいた？
4. 継体を担いだ大伴金村
 - ・ 雄略天皇の母親が男大迹の血縁者、大義名分
 - ・ 男大迹は多くの地域の豪族との婚姻関係
5. 継体天皇時代の出来事
 - 512年：任那四県割讓の対応 （筒城宮時代）
 - 527年：筑紫磐井の乱の平定 大和朝廷の統一に向けて

第4回 「つつきはっけん」のご案内

10月9日（木） 10:00 京田辺市中央公民館

歴史講座 10:00~11:30

～いにしへの宝庫～

『**知られざる京田辺南部**』

- ・ 普賢寺・多々羅・越前
- ・ 古代、中世、近世で活躍した人物
- ・ ちょっとしたこぼれ話し

魅力発見ウォーク 13:00~16:00

中央公民館～同志社山手～大南山・越前
～多々羅～普賢寺～公家谷～帰り

● 第3回 『継体天皇と筒城宮』ウォークは下記を計画

11月14日（金） 10時 JR同志社前広場 集合

筒城宮、天神山遺跡、古墳群、歴史資料館・・・